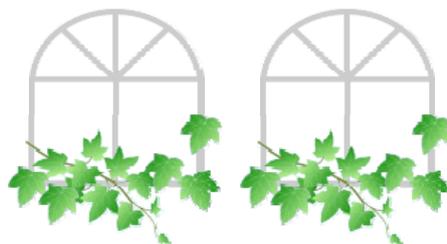


不二速報



発行日 2009年5月18日
第2号(第1回学長交渉直前号)

5.21学長交渉開催!

第一回学長団体交渉が決定しました。

5月21日(木)15時10分から2時間の予定で、学長と団体交渉を行います。

交渉にあたっては、

- ①「情報公開を求め、経営側とは別の視点から、共に考えていく」
- ②「全体最適を目指す」を基本的な姿勢として臨みます。

「・・・を求める」と「金がない」の応酬を乗り越えたところで要求を行い、そして現在の大学の在りかたが部分的な適合性しか考慮されておらず、全体最適となっていないことを問題にしていきたいと思えます。

具体的な交渉事項としては、まず組合と学長との三原則の確認を行い、続いて「本年度以降の大学の財務状況と今後の方針について」について、つぎの6項目にわたり交渉を行う予定です。

- ① 大学の言うところの「不安定要素」「流動的要因」とは何か。
- ② これらが財政上与える影響の大きさとはどの程度のものか。
- ③ 「人件費削減計画及び教員の戦略的配置について」の今後の見通し。
- ④ 教員の基盤的教育研究経費の削減はいつまで続くのか。
- ⑤ パート職員と派遣職員の人数と配置の基準と適切性。
- ⑥ 学長裁量経費の年間総額と使用内訳

その上で、昨年度来交渉を行っているつぎの4項目の継続の課題について現状を確認するとともに、経営側の認識を質します。

- ① 東西両キャンパス地域調整手当支給率の改善(静岡5%、浜松4%に)
- ② 技術職員の昇格基準の明確化(特に浜松キャンパスにおける技術専門職員から技術専門員への昇格問題)
- ③ 非常勤職員(パート職員)の労働条件について(非常勤職員の職務内容についての認識、法人化後採用の非常勤職員の3年雇い止め一律適用の撤廃、非常勤職員の待遇改善:一時金支給、夏期休暇5日、時給単価の改善)
- ④ 初修外国語教員の雇い止めについて

また、人事院勧告の取扱いについても、経営側の判断とその理由を明らかにするよう求めていきます。

**皆さん、ぜひ学長交渉にご参加ください。
多くの参加で要求を実現しましょう!**

参加される方は、**19日までにご連絡ください。**

静岡大学教職員組合

静岡:
〒422-8529
静岡市駿河区大谷836

TEL/FAX:
054(236)0173(直)
2790(内線)

E-mail
suu@jade.dti.ne.jp

浜松:
〒432-8561
浜松市中区城北三丁目5-1

TEL/FAX:
053(475)9035(直)
3910(内線)

E-mail
suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

第1回学長交渉	1~2
メーデー報告	3
組合からのお知らせ	4



◆第1回団体交渉申入書◆

2009年4月23日

静岡大学長
興 直孝 殿

2009年度第1回団体交渉申し入れ書

静岡大学教職員組合
執行委員長 村山 功

静岡大学の運営にあたってのご尽力に敬意を表しますと共に、日頃より、組合活動へのご理解をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年度の交渉におきましては、多くの課題を積み残しながらも、パート職員の常勤職員への登用の試みを提案いただき、組合としてもこれを高く評価しております。また多くの財務資料も提出いただき、大学の財政状況の一端を把握することができました。今後、大学の未来についてビジョンを共有する中で、具体的事項について議論することの必要性を改めて認識いたしました。

このような中、本年度も大学側の理解と英断を期待し、以下の事項について団体交渉の場を設定していただきたく、ここに申し入れる次第です。

【以下、申し入れ事項は1ページのとおりです】

5.1 メーデー参加報告

【静岡県中央メーデー：駿府公園東御門広場】

東部キャンパスからは11名がメーデーに参加しました。会場は例年通り駿府公園で、今回の参加者は500名との発表がありました。

開会の30分以上前から会場にいましたが、早くから集合して精力的に署名集めに回る団体などもあり、開会前から活気を感じられる大会でした。式は来賓の挨拶ありコントあり歌ありと、例年通りバラエティに富んだ内容でスムーズに進行し、メーデー宣言の採択後市内をデモ行進しました。シュプレヒ



コールの内容は、やはり雇用関係のものが多く、厳しい状況を感じさせられました。道行く人々に我々の声が届いてほしいと願わずにはられません。

デモの終了後、参加者で昼食をとりました。私が支部長や執行委員の時代にお世話になった方々とも久しぶりにお話しすることができ、楽しい時間を過ごすことができました。部局や世代を越えて交流のできる組合のすばらしさを実感した日でした。今年参加されなかったみなさんも、来年度はメーデーに参加してみませんか。

(委員長 村山 功)

【メーカー西部：浜松城公園・中央芝生広場】

浜松では、5月1日に浜松城公園でメーカーの集会が行われました。当日は素晴らしい散歩日和で、公園では散歩の市民や遠足の園児たちがたくさんおりました。私にとっては初めての参加になるのでどり着けるか少々心配しましたが、会場はすでに多くの団体が集合して集会が始まろうとしており、すぐにそれと分かりました。静岡大学教職員組合も旗を持ってその中に陣取っておりました。

つぎつぎに挨拶や呼びかけが続きましたが、今年は無曾有の不況を反映して、「派遣切り」

をはじめとする雇用問題が主要なテーマでした。昨年度は、急速な景気の悪化に伴って、メーカーの工場などが多い浜松周辺では、多数の派遣社員の方や期間雇用の方が職を失いました。それに伴ってブラジルに帰ったブラジル人労働者も多いと聞きます。そのような人は、こうした集会にさえ出ることできないのです。

不況は社会全体の問題ですが、その被害は必ずしも均一に受けるわけではありません。あまりにも安易に、労働者をトカゲのしっぽ切りのように切り捨てる企業、社会に対して、われわれは何をなしたのか。それを考えました。

集会では、壇上に来賓の方々が座っており、広場には労働者が立って挨拶や呼びかけを聞いていました。このような配置は、学校ではよくある構図ですが、典型的な権力と管理の構造を示しています。

座る者と立つ者、高い目線と低い目線。壇上で提起される話題は新聞等でなじみのある論調でしたが、会場配置には大きな疑問を持ちました。また会場では、ひととおり挨拶などが終わると、歌の合唱などがありました。実は、これにも違和感があって、参加する気にはなれませんでした。連帯の歌ということになると思いますが、若い世代では、ああした歌をああした場で、皆で声を合わせて歌いたいと思う者はほとんどいないでしょう。会場にもそうした空気が流れていた気がします。

現代は、労働者といっても、一枚岩ではなく多様化しています。組合活動もまた、そうした状況下で組織し、活動しなければ、たんなる時代

錯誤の過去の遺物になってしまいます。組合では、若い世代の不参加や組合員の高齢化が問題となっていますが、組合活動がこうした相変わらずの「労働者」像に縛られているなら、組合に未来はないでしょう。静岡大学に限っても、多様な立場と多様な文化を持った者が集まって働いています。これらが総じて同一の文化にまとまることは不可能だし、その必要もないはずですが、もし、組合活動に意義があるなら、こうした多様な参加者同士が、そしてさらに異質な非参加者も含めて、人間として同じ高さの目線で認め合う、批判と協力の関係以外はありませんと私は思います。

集会のあと、浜松城から浜松駅まで旗を持ってデモ行進しました。数百人程度のわれわれは、浜松市という現代的な大都市のなかのほんの一握りの人間の集まりにすぎません。現代という時代に応じた活動を展開してこそ、現代という時代の中に担うべき役割を維持し続けられるでしょう。それを忘れてはならないなと思いました。

（執行委員 吉田 寛）



組合からのお知らせ

◆ 団体交渉にぜひご参加ください ◆

5月21日(木) 15:10～
(14:00から静岡書記局にて打ち合わせ)
本年度第1回目の団体交渉です。
ぜひご出席をお願いします。
学長も出席予定です。

出席希望の方は、5月19日(火)までに、
所属支部の支部委員もしくは書記局まで。

◇ 5月11日に

第1回代表委員会を行いました。 ◇

各支部、部会代表の方々から、交渉事項についての貴重なご意見をいただきました。
また、交渉が実りあるものとなるよう、人事課との事前折衝も数回にわたって行っています。

◇原水禁国民平和行進日程・コースのお知らせ◇

- ・19日(火) 湯河原～熱海市海浜公園多目的広場
- ・20日(水) コープ田方センター～裾野市役所前
- ・21日(木) 御殿場駅前～沼津・今沢基地
- ・22日(金) 芝川・香葉台公園～富士市平垣公園
- ・23日(土) 富士川駅前～清水・鉄舟寺
- ・24日(日) 清水区役所～静岡・常盤公園
- ・25日(月) 静岡・青葉公園～上小杉団地公園
- ・26日(火) 藤枝市役所～金谷地域交流センター
- ・27日(水) 菊川市役所～掛川市役所
- ・28日(木) 掛川市役所～コープ国府台
- ・29日(金) 天竜川駅北・六所神社～熊野神社
- ・30日(土) 熊野神社～鷺津駅前ひまわり公園
- ・31日(日) 鷺津駅前ひまわり公園～

湖西上ノ原公園・愛知県引継

各日の詳細な日程・時間等は、書記局へ。
また組合旅費規程に従って旅費を支給します。
参加される方も書記局へお知らせください。

署名ご協力をお願い

◎ 全大教「国立大学・高専・大学共同利用機関の運営費交付金の削減を中止し、基礎基盤的経費の増額を要求する署名」の取り組みについて

運営費交付金の継続的な減額により、静岡大学を含めて財政基盤の弱い地方国立大学法人は厳しい状況に陥っています。

研究面では、度重なる研究費の減額により、競争的な予算にチャレンジする基盤すら失われてきています。また、教育面においても学生に対する教育費が年々減らされており、このままでは高等教育機関としての責務を果たすことができなくなってしまいます。加えて、人件費の抑制により職員の非正規化がますます進み、労働条件が悪化して中堅やベテランの求職者・退職者が増加し、更に負担が増加するという悪循環に陥っています。

このような状況は、我々教職員の努力だけではもはや解消できないものとなっており、広く学外に向けて現状を訴え、改善を要求していく必要があります。

静岡大学で働く者として、立場を越えて大学の現状を訴えていくよう、署名をお願いいたします。

署名用紙がお手元に届きましたら、ご家族、ご友人など、広く署名の輪を拡げて下さい。

◎ 県国公からも署名が届いています。ご協力よろしく願いいたします。



【本年度の定期大会】 6月25日(木)

【本年度の全大教全国教研は静大が会場です】

日程：9月4日(金)～6日(日)